

2005～2006年度

# 栄えあるアワード受賞



# THE JINZU LIONS

富山神通ライオンズクラブ会報  
発行所/富山市桜木町10-10富山第一ホテル5F富山神通LC

No. 65

2006.7月号  
7月6日発行  
PR・IT会報  
編集委員会

## 第五十二回地区年次大会

クラブスローガン

「神通の知性高めて和の奉仕」

### アワード

ガバナー大賞（青少年健全育成活動賞）  
合同事業活動賞  
LCIF推進賞



## 「一年間の任期を終えて」

富山神通LC 会長

「藤永 隆

時の流れは絶えずして、しかも元の水にあらず、と言いますように私達を取り巻く社会情勢の変化の激しい時期に、三十七代会長を拜命し不肖この身でありながら、まがりなりにも一年を迎える事ができました。まずは皆様に、心より感謝と御礼を申し上げます。

この一年を振り返りますと、案ずるより生むが易しとは言いますが私自身は案じた通りの事も多々ございました。それは自分の勉強不足と、準備、段取りの悪さから発生したものでございました。しかし、若い幹事に補佐しカバールをしていただきました。グチと良くない個人名は一度も聞いた事がございません。又各委員長さんのアクティビティに取り組んでいただいた、努力と姿勢に感謝し一人心中で合掌しておりました、ありがとうございました。また今年は一RC、一R地区委員の皆様の活動も目覚ましいものがあり、どれだけの時間と神経をついやしていただいたかは、計り知れませんがほんとうにご苦労様でした、私はこの一年間の良き体験をさせて戴いたおかげで、

過去に努力をされてこられた方々のお気持ちが見えるようになりました、この一年一つ残念なのは、故、横江ライオンを失った事です衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

終わりになりますが、神通ライオンズクラブの、新たな歴史に向かっての発展と、会員皆様の御健勝、御多幸を祈念申し上げます、一年間の感謝と御礼を申し上げます。



「ありがとうございました！」

幹事 ㄥ 鋪田博紀

短かったといえよいか、長かったといえよいか。いよいよ一年が終わろうとしています。この間、会長をはじめメンバーの皆さんに多大な迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

また、多くのメンバーから「幹事ががんばれ！」と書かれた年賀状をいただいたときは、本当に涙が出そうなくらい嬉しかったです。「ありがとうございました！」。

さて右も左もわからぬままスタートした一年でしたが、まさに幹事特権？で、米子中央ライオンズクラブの皆さんと仰ぎ見る事ができた雄大な立山連峰（あんな眺めは何回も登っていますが初めてでした）。青少年育成について会長と激しく議論を交わして実行した「太極拳とみんなで歌う青空コンサート」。アワード大賞は望外の喜びです。富山南高校におけるY.Eの授業体験での日韓双方の生徒の心からの笑顔。夜間例会の二次会（ひよつとして三次会？）から生まれたクリスマス例会での余興のアイデア。電動車椅子サッカーチームの皆さんの迫力あるプレー。さつま芋の苗にむかって「がんばれ！」と励ましていた盲学校の生徒。想い出は沢山ありすぎて書ききれません。

一緒に汗を流していただいた委員長の皆さんにお礼を述べさせて下さい。「ありがとうございました！」。

正直なところ、これまで自分が担当し

た事業・活動以外はお客さん状態でしたが、幹事としてすべての事業・活動に関わることで、ライオンズクラブの本当の楽しさを見つけることができました。心から感謝しています。

今年一年体験したことを、これからのライオンズクラブの活動に活かしてまいりたいと思います。本当に「ありがとうございました！」。



「一年間の活動を終えて」

会計 ㄥ 羽岡紀男

事業を成功に導き、善良な生活を楽しみ、常に微笑みをたたえ、人類を愛し、知識人の尊敬を集め、幼子たちに親しまれる人、彼こそライオンと呼ばれる人。私の好きなライオンと呼ばれる人の一節ですが、ライオンズクラブも十五年多

くの知識人と交わり、孫の保育園ではおじいちゃん、おじいちゃんと親しんでもらっていても、又胸に会計のバッチを付けて意識をしても、会合の席など意見が違うと言いつ争ってしまい、自分の性格ってなかなか変えられないなと感じている近頃です。

さてクラブ会計の役職は三役と呼ばれる地位ですが、皆さんご承知の通り会計の実務は専従事務員がすべて処理していますから、本来業務はこれまで三回事務処理された伝票に目を通し会計報告をするだけの、簡単な役目で、取り立てて申し上げることも無いのですけれど。

それにしても私は久々にその役職に選ばれ、いろんな会合に出席して重要な案件を審議する機会も数多く有りました。ライオンズクラブはメンバーの選んだ、「会長」他の役職の者でいるんな案件を、時間を掛けて充分に審議して、例会にて「皆さんに報告をして理解を求める」、国際協会以下いわゆるトップダウンで指示が有り運営される、こんなシステムで成り立っている様な思いでいる者なのですが。

そこには、クラブのシステムの永年の伝統とか、流れを承知している代表が、何人か必要ですけれども、だんだん単位クラブだけが若いメンバーも加わり民主的な流れになって行く様な気がしてなりません。

必ずしもそれが悪いなど、封建的なことを言うつもりはありませんが、

「CFS」など、何回も会合を重ね半年以上も掛かって一番手取り早い集金しない方法で解決を見たことなどは、

CFS に協力した、という実感も無く、後の年に悔いを残す会計処理を決めた事には、民主的に決めた事とはいえ心残りが有ります。

「一年間皆さんのご協力ありがとうございました」

T・T ㄥ 矢郷允康

平成十七年七月一日より平成十八年六月三十日迄、T・Tという大変有難い役目を藤永会長より仰せつかり、一時は私に年間一六〇万円ものドネーションを集める事が出来るかと大変心配致しましたが、皆様の御厚情によりなんとかが目標を達成することが出来ました。

会員の皆様本当にありがとうございました。心から御礼を申し上げます。 合掌

「一年間の活動を終えて」

会則及び付則委員長

ㄥ 山田清治

今年度、会則及び付則委員長を受けて、改めてクラブ必携、ライオンズスピリット、役員必携等を読み、一世紀近くになるライオンズクラブの歴史、そして私が入会してからの四半世紀になる我が神通LC歩み、先輩クラブメンバーの事など思い起こしてみます。

メルビン・ジョーンズが設立したLC、その当時の社会はたしかに奉仕の必要性



が解かりやすい姿であったと思われる。

初めて日本にL.C.が誕生した五十六年前においても同じだったと思う、そしてその対象が福祉中心にあったはずで非常に身近なものであった、しかし我が国等先進国は社会福祉環境が充実し、アクティビティプログラムが必然と変わってきた、それが青少年、環境、四献等となって来ている。それはクラブ会則にもはっきりと年度版を追っていくと理解出来る。又なげクラブ会則を作ったそれを順守しているか、一つはアクティビティの方向、それは人口比〇・一%のクラブ員数で社会に与えるインパクトを大きくする為（各クラブが同じ方向のアクティビティを行うことに）、そして常に新鮮さを保つための役員の交代、最も組織で起こりがちな新旧メンバーの不平等性（収利と義務の平等）、クラブ会則は我々がモットーとしているウイサーブを達成しやすいように組織の構成、運用の仕方を決めていく。

又クラブ必携の前文の方でライオンズスピリットの要約が書いてあります。

地域社会に要求されているアクティビティでなきやいけない、金銭に頼ってはいけない、PRをして共感と支持を掲げなければいけない、そして奉仕が奉仕を産むようにしなさいと、これについて私は以前より我々の奉仕のアンカーは市民であると、一本のローソクを一〇〇〇本とあるのは〇・一%のメンバーを一〇〇〇〇倍にアンカーすれば日本人口一〇〇%がライオンズマン（奉仕者）になる、この意を持ったのはアメリカへ旅行した時に土曜の朝にハイウェイの路肩を老若男女

が草刈をしているのを見て問いたですとライオンズクラブからバトンを受け毎土曜の朝は地域の家族全員で行っていると聞いて感動したからです、こんな思いを持って準備委員会では例会にて話をさせて頂くのですが実行されませんでした（会則の常任委員の任務の中で年一回例会に関する例会を開く）、でも会員委員長の主催のもと若い会員の方々はディスカッションする場を設けて頂き、その場では少しは申し上げる事が出来ました。又この委員会の役割の中で新入会員のレクチャーがあります、六人の入会者があり一時間なのでL.C.の歴史と組織的なことしか話せませんでした、おおい理解を深めて下さることを期待しています。

富山神通ライオンズクラブ例規の改訂申し入れがあり、委員会を開き、不在会員の定義（資格の定義）六ヶ月毎に理事会で審議するのを役員必携では一回と書いてあるのを当クラブは二回（一年間）とする事で承認を受けました、又その会費の決定、例規三の地域の見直しを含め次年度より施行されることとなりました。終わりにこの委員会、そしてクラブ員の皆様の協力に感謝を申し上げ一年の回顧とさせて頂きます。

## 「クラブ認証三十七周年につけて想」

大会CN委員長 L湯本陽夫

ご周知のように当クラブは、一九六八

年十一月二十四日富山セントラルライオンズクラブのスポンサーにより創立され翌六十九年五月十日富山県民会館に於きまして認証式を行って以来三十七年間、富山神通レオクラブは創立一九七一年九月一日、結成七十二年四月十二日より三十四年間、共に三三四D地区としては自他ともに認める数々の有意義なアクティビティとクラブ実績を残して来ております。

クラブ創立時二十三名、認証式時四十三名の会員数も途中退会された方、又不幸にして故人になられた方々がいながらも現在は九十一名と、エバーオンワードに限りなき前進を続けております。このクラブ会員数は三三四D地区では福井中央ライオンズクラブと双璧、地区トップと聞きおよんでいます。

入会して以来感じるものの一つにクラブの伝統の素晴らしさがあります。クラブの足跡の確かな記録と活発な意見交換です。

経験の浅い会員の疑問や意見に対して経験豊かで他クラブの実情にも精通し視野の広い諸先輩ライオン達や委員会、理事会、例会を問わず忌憚のない発言をし、クラブ運営と事業が適切に行われかつ友好的であるとおもいます。

古い過去に固執せず、時代のニーズを読み続け、常に地域の共感を得ながら取り組む奉仕活動は当クラブが躍進を続けるゆえんであると確信致しております。認証三十七年の式典を終え、皆様のご協力に深く感謝致しております。有難うございました。

## 「一年間の活動を終えて」

会員委員長 L白川明吉

〇五〇六年度は 順番として大川内ライオンの後を受けて 会員委員長を拝命しました。クラブ運営の原動力となるポストと認識しており 前委員長は純増もクリヤされ更にドロップゼロの大変な偉業を成し遂げられましたことは私にとつて大変な重責と改めてプレッシャーを感じたものです。藤永会長は当委員会に特別な意欲を燃やされ 更に任期中のテーマとして四十周年まで会員一〇〇名を目標す方針を打ち出され 会員拡大特別委員会を立ち上げました。

メンバーは藤永会長を筆頭にL大久保L廣田L吉田(誠)L森田(忠)L宮崎(忠)L谷川L若井L策畑と私の十名で 会員増強、退会者ゼロの可能性に挑戦の意欲を盛り上げました。年度始めから七月八月九月と立て続けに一名ずつの入会式が執り行われ 誠に嬉しいスタートだったと思つて居ります。会員増強は不況の煽りを受けて退会者や閉会クラブの続出する中、ライオンズクラブとして特に取り組まねばならない問題であり 本年も国際会長アシヨク・メーター氏が打ち出した政策目標プラス、ワンに現れて居ります。また本年度は 我がクラブから リジヨンチャアパーソンや 地区委員を送り出して居る立場からモリジヨンのリーダーシップを執らねばならない立場である事も事実であります私は年初 純増六名の目標を掲げましたが月日の経つのは早いもので早くもラストスパートをかけよと

警鐘が鳴り渡っており振返っている間もありませんが、ゾーンレベル会員委員会に四回出席致しました、その都度それぞれのクラブの会員推移状況を報告と対策を発表せねばなりません。国際協会やキヤビネットは大山ライオンズの岡本氏の言によれば、出来ません目標を掲げて我々を困らせる。実際言は易く、行い難しと自分も思っております。お蔭様でその都度我がクラブの会員数は、減る事も無く他クラブからは、増員の方法を問われ藤木前会長の時、作成した入会のしおりを発表させて戴きました。会員増強につきましては、福島、浦田（啓）、小山、藤永会長に、谷川のご協力により六名の新入会員を、向い入れる事が出来ました事は、一重にクラブの皆様のご理解とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。又三月二十四日に入会後三年未満会員との懇話会を会則付則委員会、出席委員会、会員委員会合同で、ボルファートとやまの教室にて開催いたしました。参加人員は、勉強意欲に燃えた三年未満会員十四名と、ライオンズ大学最優秀古参教授二十名、藤永会長挨拶で幕を開けフリートキングで、授業を行いました。何時もライオンズ必携なんて例会のテーブルに配られていても、毎年一冊が貯まり、持つて行かずに置いて行かれるライオンも多数おられますが、山田ライオンから必携は必ず持参とキツク言われ私も平素は見もせず、手にせずの怠くら者で、俄か勉強と経年のおさらえを慌ててやりました。フリートキングでも四つのテーマを掲げ、森田（忠）、山田（清）、山田中（俊）、大川内、朝倉の五人教授が教

壇に立たれ、山田ライオンのアクティビティの真意の教題から始まり会員の種類、常設委員会の任務、理事と理事会の役目、ライオンズクラブ役員の仕事、のテーマで熱烈勉強しました。

教室から開放され懇親会では燃えた受講生の一言発表を聞き、これからの、我がクラブを背負ってくれるだろう三年未満会員に、力強い何かを感じた。また会員委員長として、遣り甲斐冥利に尽きる一年であった事を本当に有難う御座いました。

## 「一年間の活動を終えて」

ライオンズ情報委員長

朝倉昭治

情報の明暗

皆様の御協力により漸くライオンズ情報委員長の大役を果たし安堵致しております。

この間情報の重要性について多く学ぶものがありません。

特に情報は「正確」でなければならぬと痛感致しました。

「正確」でない情報は「ホリエモン、ニセメール」のように貴重な日時と莫大な国費を空費し、多くの人に多大な迷惑と犠牲を強いることとなります。

例年六月一日と二日は富山市の「山王さん」と呼ばれる日枝神社の祭日です。当日は約一千におよぶ露天商と三十万人と称される人出で賑わいます。

この時期になると私は「情報の明暗」についてよく想起する史実があります。

天正十年六月二日、京都本能寺において天下統一を目前にした織田信長が重臣明智光秀の謀反によってその日の卯の刻（午前六時）自刃しております。

この情報を翌日の三日に入手した羽柴秀吉（後、豊臣秀吉）は中国遠征から急ぎとって返し、わずか十一日後の六月十三日京都山城ノ国、山崎の甲い合戦において見事謀反人、明智光秀を討ち取り、織田信長の果たせなかつた天下統一の基盤をつくっています。

ところでその年の大正十年三月頃から織田信長の命を受け派遣されていた柴田勝家を総大将とする佐々成政、前田利家等の北陸遠征軍数万は、当時越後の国の覇者、上杉影勝の越中ノ国最後の拠点で、僅か千五百人が守備する魚津城（現、魚津市本町、大町小学校とその周辺）を二重三重と包囲し、連日猛攻に次ぐ猛攻で攻めたてております。

この八十余日にわたる激闘にさしもなく勇猛を誇る城兵もやがて多く斃れ、残る城兵約三百人心身ともに疲弊し、更に矢弾兵糧も底をついたことから、六月二日の織田信長の死を知らないばかりに城兵は討ち死にを決意し、六月三日奇しくも信長死の時刻と同じ卯の刻に残兵全員白刃し、遂に魚津城は当日落城しております。

ところがその三日後の六月六日織田遠征軍は「信長死去」の報に接して驚愕、上杉軍の反撃と国々の寝返り謀反を恐れ、織田の大軍は急遽領国の越前や加賀の国等に引き返し、折角攻略確保した魚津城から数万の織田軍が一日一夜の内に消

え去った。と伝承されています。

本当にあつた三日魚津城の守兵は生き残りをかけて防戦に耐えておればと惜しまれ城兵の心情を察するとき、ただ哀切を感じます。

そして、「山王」さんの祭日になるとこの史実が想起され、情報入手の如何が運命の明暗を決することを切実に感じ、また「情報の正確さ」とともに「迅速」であることが如何に重要であることかと、更に痛感させられる次第であります。

## 「一年間ありがとうございました」

甚内忠義

当初あれこれと計画を立てましたがこの一年、年齢と共に月日の経つのは早いと云いますが、あつという間に過ぎてしまいました。会長をはじめ、RC森田に助けられ、二〇〇%例会、YE生受入特別九〇〇回記念例会等、この一年皆様には、御迷惑を掛けたことをお詫びすると共に心より感謝を申し上げます。一年間ありがとうございました。

## 「一年間の活動を終えて」

IT委員長

小林欣典

今、一年間の活動を終え改めて痛感することは、入会した当初からライオンズについて何一つ判らず諸先輩方に指示を



仰ぎながら情性で活動し、如何に無駄な時を重ねたかということです。普段からライオンズ活動の見えない物が判断し、ライオンズ活動の見えない物が理解できずにいました。今期、ＩＴ委員長という肩書きを頂き、情性や消極的ではなく積極的に例会や奉仕活動することによって、ライオンズ活動の見えない物が少し理解できるようになって参りました。たとえ

ば例会や奉仕活動が始まるまでの準備や終了後の付帯設備の撤収作業等、また事業活動の計画の立案や下準備や調査など当事者として参加しますと、卓上論者ではなく経験論者で肌で意味を感じられ、本当に今までのライオンズ活動すべてに携われた諸先輩方に感謝する気持ちでいっぱいです。またそのようなことを

考えながら参加することによって、ひしと新しい喜びが生じました。必要とされる喜び、頼られる喜び、ライオンズの意味が判る喜びを私の中で昇華できたことを大変うれしく思います。より一層ライオンズ活動に率先して参加したく思いますので今後ともよろしくお願いいたします。

「一年間の活動を終えて」

市民奉仕委員長 宮保里嗣

はじめに、この一年間、委員会の活動に協力して下さった皆様方に、心から感謝の意を表します。

新聞誌上で交通事故のない日が無いという毎日、その中でも交通事故死亡者の

内、六割超はシートベルト着用でシートベルトをしていれば被害が軽減した可能性があったと言われております。

市民奉仕委員会ではこの事実を重く見て児童を通じた家庭内でのシートベルト着用意識の向上を図ることを目的として「児童のシートベルト着用啓発推進事業」を実施しました。

「ダミー人形による衝突実験、シートベルト効果体験車、交通安全ビデオの上映等、立案、準備、実施に至るまで日本自動車連盟、富山中央警察署、交通安全協会、光陽小学校PTA、光陽小学校職員の方等、大勢の方々にご協力頂きました中でも、ダミー人形による衝突実験時の児童の恐怖に似た反応は今でも心に残っています。

当日は寒い日になりましたが大変実のあるものとして多方面の方々にお喜び頂きましたなかな無事執り行うことが出来ました事、心から感謝いたします。

誠に微力でありますが、今年度の経験を活かし今後とも精一杯努力したいと思っております。



## 「一年間の活動を終えて」

レオクラブプログラム委員長

永井秀宗

初めて事業委員長を拝命して、ようやく一年がたちました。まずはこの様な機会を与えていただいた事に感謝申し上げますと思います。

メイン事業である「重度身体障害者車椅子サッカー教室」におきましては、当初十一月に予定していたものが二月末に延期となりましたが、高志療養ホームのお力添えもあり、何とか開催する事ができました。今回レオクラブのメンバー全員が非常に真剣かつ楽しく取り組んでいる姿勢を見ることができ、非常に安堵いたしました。青少年にとつて大切な「心の教育」、「心のふれあい」と言ったものが、ある程度実践できたのではないかと感じられ、また同様に障害者の皆様が心より喜んで頂けた様で、実り多い事業だったように思われます。

実はこの事業の終了直後、後片付けと挨拶の為、ひとりで療養ホームに立ち寄ったのですが、その際、先程までサッカーをしていた障害者の方々が、スーと私のところへ近づいてきて、「ありがとー!」。次に会った方も「ありがとー!」と握手を求められました。何となく事務的に事業が終わったと思っていたのですが、この時初めて「やってよかった!」と心から思う事ができ、「こちらこそ本当に有難う!」と涙が出るほど嬉しい経験をさせて戴きました。やはり、このような事業は継続することは大切であり、続ける

事でお互いの理解度が深まってくような気がします。

年間を通して、何よりも心残りののが、三月十九日の「レオ交流イン石川」に、当レオメンバーを一人も集められなかつた事です。

これは前年度にキャビネット主導で始まった事業であり、今年度はFCひがしのメンバーを含め多くを連れて行く予定で、一年前から関係者にはスケジュールをお渡ししていたのですが、サッカーの試合、受験シーズンなどとなり、結局計画倒れとなつてしまいました。これも私の力不足と反省しております。

年度が終わり、初めてレオプログラムが少し理解できたような気がします。当レオクラブは会員の減少や、運営の仕方にも色々問題を抱えていると思います。今期の反省も踏まえ、次年度の委員長には頑張つて引き継いで行つていただけたらと思います。皆さん有難うございました。



## 「一年間の活動を終えて」

尾山謙二郎

昨年に引き続き青少年指導委員長という大変やりがいのある大役を拝命し及ばずながらも無事に年度末を迎える事ができたのも、ひとえに皆様方の温かいご指導の賜物であるとせつに感じております。皆様方にはこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。

昨今の青少年による犯罪の低年齢化、残虐化の原因の一つとして各家庭における核家族化がもたらす人間同士のコミュニケーションセッションがクローズアップされている中、各家庭の親子間で今まで以上のコミュニケーションを少しでもとっていただくとうと昨年の八月二十一日に布瀬南公園に於いて執り行わせていただきました。「青少年とふれあう市民の集い、太极拳とみんなで歌う青空コンサート」が、ガバナー大賞、青少年健全育成活動賞をいただけました。大変幸栄であります。事業を通して改めて当神通ライオンズクラブの強い結束力を感じさせられました。今後益々、青少年の健全育成は社会全体で考えねばならない大事なテーマであると思えます。今後も神通ライオンズクラブにしか出来ない事は何であるかを考え皆様と共に素晴らしい活動に参加出来ればと強く思います。

今年一年は皆様方には大変お世話になり誠にありがとうございました。

## 「視覚・聴覚・言語障害者福祉委員長の職務をまっとうして」

視覚・聴覚・言語障害者福祉委員長

林 巖

会員の皆さんには視覚・聴覚・言語障害者福祉活動にご理解とご協力を頂いております。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、小生もライオン暦十年目にはいつて委員長をおおせつかりました。無事まっとうできるかどうか心配でしたが、ほつとしていきます。これは、大山ライオンズCの岡本武勇(当クラブOB)さん、県立盲学校の教頭先生、福島先生また当委員会の中田副委員長、北川委員、もちろん藤永会長、鋪田幹事をはじめとする執行部の皆さんの協力があつてはじめてできたことです。

今年のさつま芋の苗植えは、五月十六日(火)に行われました。岡本さんの話によれば十七回目だそうです。本当初の歴史のある行事なのです。ただ、最初のころには、盲学校の生徒さんもたくさん参加されたそうですが、最近は生徒さんが少なく今年も5名の生徒さんでした。障害を持つ子供が減少しているのかどうかよく分かりませんが、とにかく、子供たちが元気で明るいので、こちらが元気をもらって帰ってきました。広野君(六年生)に会うのはこれで五回目だと思いますが、毎回成長してとつても頼もしくなりました。

小生は、年二回のさつま芋行事を奉仕活動というより、楽しみな年中行事にな

っています。クラブ会員の皆さん全員にこの気持ちを味わっていただきたいと思えます。ぜひとも次回の芋掘りにはご参加ください。お待ちしております。

## 「一年間の活動を終えて」

環境保全事業委員長

森 信治

この度、環境保全委員長を任せて頂いた事に深く感謝致します。この事業の目的「自然環境の質を改善して人類全体の福祉向上を図る」と言う事に最も適した事業、松川、長慶寺、浮田家の清掃奉仕活動は自分自身にも生忘れられない事業になりました。初めての委員長で右も左も分からない私が、この一年間やってこれたのは、ひとえに皆様の暖かいアドバイス、御指導等のお陰です、また積極的にご参加下さった当クラブの会員の皆様及び他方面の方々のご協力の賜物と思えます。当事業は当LCに於いて今後ともな

くてはならない事業の一つではないかと思えます。お金や物を与えるだけではなく身体を使い労力により地域の皆さんや社会に喜んで頂ける事業をこれからも積極的にやって行きたいと思えますので今後とも宜しくお願います。



## 一年間の活動を終えて

Y E 国際関係プログラム担当

松田俊之

藤永会長より、Y E 国際関係プログラム担当をお受け致しました。

「神通の 知性高めて 和の奉仕」スローガンのもと、担当事業に精進しましたが、あつという間の一年でした。

上期事業では、七月の「松川ベリ清掃奉仕」、八月の四委員会「合同アクティビティ」にも参画致しました。十月には、米子中央ライオンズクラブの表敬訪問があり、両クラブ間の親睦を深めた交流でした。

下期事業では、Y E 留学生の受け入れが二〇〇二年以来、四年ぶりに実現できました。今回は、韓国の女子留学生(高校生)をホストクラブとして、責任持って受け入れました。特に、受け入れプログラムは、日本文化、富山の伝統や歴史見聞等の観光型から、日本の学生との交流とコミュニケーションに注目し、体験留学を目的としたスケジュールを組みました。

富山市長への表敬訪問では、通訳なしでの市長と留学生との韓国語での懇談や、地元新聞社へのご挨拶により、翌日の新聞記事に「当クラブの取り組み」を大きく取上げていただきました。

また、留学生を地元ラジオ放送局に生出演させて、Y E 国際関係プログラムの主旨と学生本人の体験目的も立派にPRできました。

さらには、ホストファミリー宅での留



学生を囲んだホームパーティーも楽しい一時だったように思われます。

本人が一番有意義に感じたのは、富山県立南高校での国際学科コースに一日体験留学をして、同世代の学生同士の交流とコミュニケーションが図れたことでしょう。共通の「英語」を駆使して、お互いがすぐに仲良く国際交流が出来たことに、充実したプログラムだったと安堵しました。

結びに、ライオンズクラブメンバーの皆様のご協力とご理解により、「Youth Exchange」の目的が達成できたと自負しております。改めて感謝申し上げます。



中村秀樹

## 「富山神通ライオンズクラブに入会して」

ライオンズに入会したのが三月十五日でしたから、これで二カ月半となりました。日々仕事で慢性的に家に帰るのは早くとも夜〇時を過ぎる毎日。ライオンズについてじっくり考える事のなかった二カ月半でした。

これまでの例会、献血の呼掛け、芋の苗植え等参加しましたが、なんとか参加するのに精一杯という状態です。

ただ献血の呼掛けと芋の苗植えは印象に残っています。

このような公共の福祉の為の活動には

これからもできるだけ参加していきたいと感じました。



山田昌彦

## 「神通ライオンズクラブに入会して」

奉仕活動って具体的にどんな事をするんだろう？と、ライオンズクラブの活動の方針を全くと言っていいほど理解していないまま入会した私にとって、現時点まで参加して理解できた事と言えば、例会出席は義務なのだという事くらいで、肝心の奉仕活動の内容を何となくでしか理解できていないというのが現状です。

しかしながら、数多くの先輩会員のことで、初めから奉仕活動というものを理解して入会された人はいないのではないのでしょうか？

まだ三十八歳の私にとって、これから二十年、三十年と続くであろう新人ライオンズマンとして、今活動しておかなければならない事はただひとつ、例会一〇〇%出席を目指し、一日も早く偉大なる先輩方全員に、顔と名前を覚えて頂く事だと思っています。その行動こそが、「Welfare」の精神を理解して行く一番の近道であると感じて、例会に活動に参加して行くことと思っています。

## 「一RC一年を振り返って」

ライオンズクラブ国際協会三四 D地区

一RC L森田忠雄

神通ライオンズクラブのみなさまからご推挙受け一RCに就任して、早一年が過ぎようとしています。この一年間みなさまから心温まるご声援を賜り、お陰様で大過なく、終えようとしています。みなさまのご協力に対し心からお礼申し上げます。

さて今期LC国際協会から要望された三つのことについて最終報告申し上げます。

まず第一はCSF ですが三三四 D地区全体の登録クラブ数九十八クラブ中モデルクラブは二十五クラブで二十五%の成績でこれは全国三十三準地区中八位でした。一Rのみでは十クラブもの登録を頂きありがとうございました。

次に第二はミッソン三十会員増強につきましては四月末現在三三四 D地区で六十九名増加一R(二十四クラブ)では二十七名の増加でD地区全体で一Rは四十%会員を増したことになります。

最後第三はライオンズクエストですが、今期キャビネットは国際協会LCFに対し補助金の申請をしています。二七五万円の補助金が頂けることになっていますので来期に向けて本格的活動の橋渡しが出来るものと思います。それである十一月二十九日には三三四 D地区の説明会に続き、本年六月十七日には一R二R合同の説明会を多くの先生方、教育委員会、PTA役員のみなさまにご出

席を頂いて、開催することが出来ました。これで来期は本年九月にクエストセミナーが高岡で開催され、参加された各学校の先生はライオンズクエストスキル教育が始まるものと確信しています。

ライオンズクエストが来期に向けて大きく前進したことに一RCとして大変うれしく思います。

以上ライオンズ国際協会アシヨク・メータ会長が提唱された、三つのこと全部が私の予想以上の成績で叶えられたことは、クラブのみなさんに支えられたお陰であると感謝しています。

次期地区役員及びクラブ役員にお願いしたいことはライオンズクラブ永遠の願いである会員増強、CSF キャンペーンあと二年で一人当り五〇〇ドル献金の達成とクエストスキル教育の広がりを目指します。クラブのみなさまありがとうございました。

最後に、当クラブの一R地区委員である、地区PR・ライオンズ情報委員柴草亨ライオン、地区会員拡大・改革委員大川内秋弘ライオン、地区青少年指導委員宮崎忠一ライオン、地区四献推進委員藤木一仁ライオン、地区Y E委員小川博ライオンには大変お世話になりました。ありがとうございました。





### 第三十八代富山神通ライオンズクラブ

会長 R大久保勝弘

歴史と伝統ある富山神通ライオンズクラブ三十八代会長として七月一日よりスタートさせて戴きました。三三四D地区アクティブティスローガン「ひと・まち・文化。育て伝えるウイサーブ」ガバナーズキーワード「地域と文化」。そして富山神通ライオンズクラブのスローガンは「神通の地域とともに奉仕の和」といたしました。

本年度の活動方針は 規律ある中でも会員のコミュニケーションのある例会「地域の人々とともに」をモットーとしたアクティブティ活動 会員・家族親ぼくを深める懇親会 会員拡大を目指した運営を図りたいと思います。皆様に御承認戴きました運営、事業の計画を全会員と共に実行してまいる所存であります。一年間の絶大なる御協力よりしくお願い申し上げます。ウイ・サーブ



富山神通ライオンズクラブ 幹事 R石割雅弘

今年度より、伝統と歴史のある富山神通ライオンズクラブの幹事を勤めること

となり、身の引き締まる思いです。七月当初よりのメイン行事であります「未知なる科学の体験」が始まり、そしてその後いろんな事業や例会運営が展開されていくと思われ、大変忙しい滑り出しですが一年間、クラブ幹事としてがんばっていきたく思います、何卒 皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

### 会計を拝命して



R小山 登

歴史ある富山神通ライオンズクラブの次期会計を拝命し、重責に身の引き締まる思いでございますが、有り難いことに大久保会長、石割幹事という素晴らしい先輩方がついて下さるので、教えをいただきながら一年間明朗会計をモットーに職務に励みたいと思います。今後一年、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 出席委員会報告(二〇〇六)

二〇〇五年度二〇〇六年度優秀出席者

期 間 二〇〇五年六月第一例会(二〇〇六年五月第二例会の二十四回)

選出方法

前年通り出席率八十二%を基準とする  
従って二十四回×八十二%＝十九六八  
回出席＝十九回出席の人、即ち欠席5  
回まで認める  
長期に関しては、前年通り、欠席の無い人のみ継続させる  
(ホセイは全て出席とみなす)

一年皆出席者 五十八名  
長期出席者 五十一名  
(継続出席者)

9年	10年	11年	14年	15年	18年	20年	22年	24年
1名	3名	1名	2名	3名	3名	3名	1名	2名
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	
51名	6名	6名	2名	5名	6名	4名	2名	1名

会員数	出席者	出席率	
12 / 30	89	46	51%
1 / 5	90	71	79%
1 / 19	90	69	77%
2 / 2	91	69	76%
2 / 16	91	65	71%
3 / 2	91	67	74%
3 / 16	92	76	83%
3 / 26	91	31	48%
"	91	13	
4 / 6	91	73	80%
4 / 20	91	69	76%
5 / 10	91	72	79%
5 / 18	91	68	75%

### 「一年間の活動を終えて」

PR会報編集委員長

R浅井 茂

二年前に会計という大役を無事終えてホツとする間もなく、今度は広報委員長としてその任に携わることになった時は、

その難しさと責任の重大さに不安と心配でいっぱいになりました。

クラブとして地域社会における本当のボランティアを学ぶこと、これからの国際社会の中でより広い感覚を身につけることよって、青少年の健全育成のさらなる発展を図ることを目的とし、視覚障害者の方々の支援活動、街頭献血運動の協力、清掃奉仕、又、クラブ会員の皆様の活躍等、多種多様の行事においての様子を皆様にいかにして伝えようかと考える時間が多くなりました。

家族のスナツプを撮るように気軽な気持ちではなく、緊張の連続でカメラを片手に必死でした。撮ってもらう側から撮る方にまわり、ときには時間に間に合わなかつたり、うまく撮れていなかつたりと、周りの皆さん、会員の方々にも色々迷惑をおかけしたことを申し訳なく思っております。いかに皆様に活動のすばらしさを報告できるかと考えてくれた委員一同の方には、感謝の気持ちでいっぱいです。

雨の日もあれば風の日、真夏の暑い日もあり、どれをとつても楽しく快く参加して頂いた地域住民の方、又、母子家庭の親子の皆さん、盲学校の児童の皆さん、当クラブ会員の皆さんを紹介できたのは何よりの成果だと思っております。「光陰矢の如し」とはよく言ったもので、一年間はあつという間に終わりました。しかし私にとつての一年間は二年にも三年にも思えてなりません。

最後にこの一年、皆様のご協力によりここにクラブ会報を発行できたことに感謝いたします。ありがとうございました。